

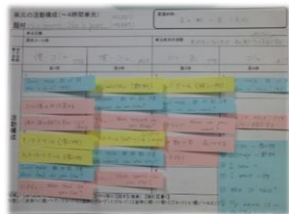
★単元の組み立て方★

外国語活動・外国語科、いずれも基本的な授業の組み立ては、他教科と大きく変わりません。授業として大切なことは、

- ① この単元を通して、どのような力をつけ、単元の終末に、どのような児童の姿をめざすのか。
- ② その児童の姿を育成するために、どのような活動を、どのような順序で積み重ねていくのか。

ということです。

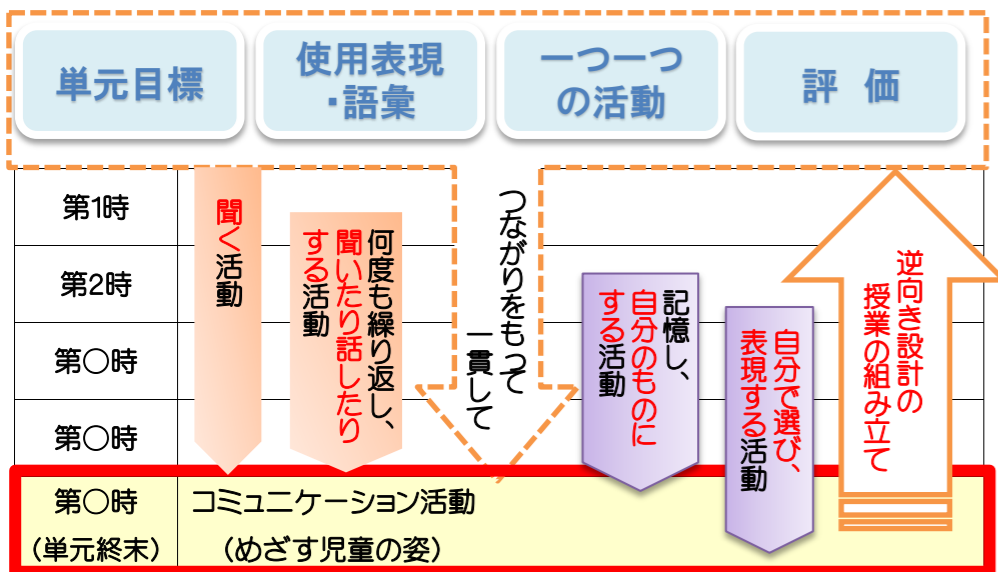
単元終末の児童の姿から逆算しながら、各時間の授業の組み立てを考えていくようにしています。



付箋を用いて単元構成表を作成

1単元全体の流れを考えた単元計画を！

単元全体の流れや単元終末の児童の具体的な姿をイメージして、計画的に単元計画を立てるようにしています。1時間毎で授業を考えるのではなく、活動や1時間毎の目標につながりをもって、単元全体を見通した単元計画の構想が非常に重要だと考えています。



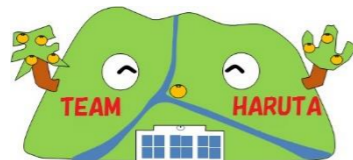
事前に、指導者が「児童につけたい力」は何かを明確にしてどのようなコミュニケーション活動を行うかを考えています。

そのためには、

- ・児童が意欲や課題意識をもって取り組める内容・題材であるか。
- ・英語でのやりとりに、必然性はあるか。
- ・どのような表現・語彙を使用したやりとりをするか。

ということを考えています。

さらに詳しい外国語の授業づくりについては、内側のページをご覧ください。



Team HARUTA

【参考】2017 京都市教育委員会作成リーフレット
英語の授業ははじめの一歩 “Let's enjoy English”

★さらなる充実に向けて★

他教科等との関連した内容や晴田小ならではの題材の活用

他教科等と関連した内容を、外国語の授業に取り入れやすいのも、担任が多くの教科等の指導に関わっている小学校だからできることです。

例えば、食べ物や料理を扱う場合には家庭科と、世界の国々の生活などを扱う場合には社会科と関連した活動ができます。その他にも、児童の生活や、地域の行事・特産品・名所等とも関連させながら、児童が意欲をもって取り組むための題材を工夫するよう心がけています。

(例)6年生 We Can!2 Unit4 “I like my town.”では、児童が実際に総合的な学習で体験したことや遠足や社会科見学で行った場所などを、写真や資料を見せることで思い出させます。児童は、自分たちの住んでいる町や市の良さを再認識し、その良さを伝えたいという意欲をもつことができます。



ALT・JTE との効果的なチーム・ティーチング

チーム・ティーチングの授業では、ALT・JTE と指導者、あるいは ALT・JTE と児童の実際の英語での言語活動を通して、英語にたっぷりと触れる機会を設定しています。配置日以外にも、動画で ALT・JTE のデモンストレーションを示すなど、活用方法は工夫次第で広がります。担任が児童に「つけたい力」に沿って授業を計画し、ALT・JTE をうまく活用し、よい授業づくりを目指しています。



English Week の設定

英語に慣れ親しみ、外国語活動の時間以外でも積極的に英語を使用する場面を増やすため、各学級や校内全体で定期的に取り組みをしています。

- ◇各学級 ・スタンプラリーの実施(挨拶など) ・英語でのあいさつ、健康観察
- ◇全校 ・朝・給食時間の英語の放送 ・今月の歌を英語の歌にする
- ・ALT・JTE とのゲーム、インタビュー ・絵本の読み聞かせ

校内の英語環境づくり

自然と英語に触れることができるように、教室、ろうか、階段等に児童にとって身近な英単語を、イラストをつけて掲示しています。



晴田小学校 外国語活動リーフレット

聴くは思いやり 言葉はおくりもの

本校では、「聴くは思いやり 言葉はおくりもの」を合言葉とし、人権・同和教育を基盤とした教育活動に取り組んできました。授業づくりにおいても、仲間とともにいきいきと学び合うことを大切にしてきました。

2017年度に、「英語教育」で佐賀県教育委員会の研究指定(2年間)を受け、今年度は研究主題を「主体的に自分の考えや思いを伝え合う児童の育成～外国語によるコミュニケーション活動の工夫を通して～」として、研究を進めています。

外国語活動も他教科と同じように、相手意識をもって話を聞き、自分の思いを伝え合う児童を育てていきたいと考えています。2020年度の全面実施をめざし、全職員で外国語活動の充実に努めています。

2020年度から、新学習指導要領の全面実施となり、小学校3・4年生の外国語活動、小学校5・6年生の外国語科が始まります。晴田小学校では、2017年度から全学年での取組を行っています。

	2017年	2018年	2019年
1・2年生 英語活動	6時間	10時間	10時間
3・4年生 外国語活動	20時間	35時間	35時間
5・6年生 外国語活動	35時間	70時間	70時間

◇小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説より

(中学年)外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成することを目指す。

(高学年)外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指す。

◇本校の授業づくりの基本

- ・外国語を通じて、言語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら聞いたり話したりすることを中心にしたコミュニケーション能力の素地を養う。
- ・学級担任が T1 で指導をし、ALT・JTE を一層効果的に活用した授業を行う。
- ・他教科で取り組んできたペアやグループでの話し合い活動を取り入れた授業を行う。

小城市立晴田小学校

TEL:0952-73-3226 FAX:0952-71-1059
E-mail: haruta-e@mail.saga-ed.jp



★授業づくりのポイント★

「めあて」と「振り返り」を意識する ※1

他教科と同様に、この授業の中で「何をするのか」ということを児童と共有し、そのめあてに向かって学習することを児童が意識できるようにしています。授業の最後には、その日のめあてに沿って、児童と一緒に3つの観点で振り返りを行い、児童一人ひとりが自分の学習や活動を振り返り、次時の学習に向けて、新たなめあてや意欲をもてるように心がけています。

必然性のあるコミュニケーション活動の設定 ※2

単元終末の活動をはじめ、児童が行う活動は、意味のある、情報のやりとりがある「双方向のコミュニケーション」を意識して設定しています。例えば、「What ~ do you like?」「I like ...」という表現でのやりとりを行う際にも、「自分と好きな食べ物や同じ友達を探そう」、「クラスの好きなスポーツランキングをつくろう」等、尋ね合う目的を児童に示すことで、児童が友達にこの表現でインタビューすることの必然性が生まれ、インタビューをする意味が生まれます。

児童や学校の実態に応じて、児童が思わず「聞きたくなる」「話したくなる」必然性のあるコミュニケーション活動を工夫して設定することを心がけています。



中間評価を取り入れる ※3

単元の終末でコミュニケーション活動を行う際には、途中で中間評価を入れています。児童のめざすべき具体的な姿として、児童の実際の活動の中から、めあてに沿ったやりとりをしている児童をモデルとして紹介したり、児童同士で互いのよかった点を取り上げたりして、その後のコミュニケーション活動がさらに充実するように、5分程度を確保しています。

☆ほめるポイントは、

- ①相手の方を見て話す態度(アイコンタクトや笑顔)
- ②気持ちのよいやりとり(反応、ジェスチャーを用いる等)
- ③会話の内容(新出表現を使う、理由を述べる等)

などとし、児童の実態に応じて、ほめるポイントのレベルを①から②、③へと少しずつあげていくようにしています。

もちろん、指導者が見取った児童の姿を取り上げてほめることで、学級全体へ広げることも有効です。中間評価を通じて、児童がめあてを一層意識して活動できるようにしています。



★授業の進め方の例★

過程	時間	第1時	第〇時	第〇時 (単元終末)
導入	5分	●挨拶 (Greeting) 本時のめあてや流れの確認 ※1	●挨拶 (Greeting)	●挨拶 (Greeting) ●本時のめあてや流れの確認 ※1
展開	35分	(Main activity) ●単元終末の活動を知る	●挨拶 (Greeting) ●単元終末の活動を知る	●挨拶 (Greeting) ●本時のめあてや流れの確認 ※1 ●コミュニケーション活動① ※2 ○Small Talk ※4 ●中間評価 ※3
		●単元終末の活動を知る	●挨拶 (Greeting) ●単元終末の活動を知る	●挨拶 (Greeting) ●本時のめあてや流れの確認 ※1 ●コミュニケーション活動① ※2 ○Small Talk ※4 ●中間評価 ※3
まとめ	5分	●振り返り (Looking back) ※1	●振り返り (Looking back)	●振り返り (Looking back)

単元の初めには、特に聞く活動をたっぷり行います。

児童が慣れてきたら、次は何度も繰り返し聞いたり話したりする活動を行っていきます。

次は、少しずつ慣れ親しんできたものの中から、自分で選んで話す活動に移行していきます。

高学年の授業であっても、単元の前半は、外国語活動の授業構成と大きく変えません。外国語活動に準じて、授業を計画していきます。

特に、高学年の外国語活動で、書く活動を取り入れるときは、音声で十分慣れ親しんだ英単語や短い文をなぞったり、書き写したりする活動にしています。

Small Talk の設定 ※4

本時のねらいに沿って導入や展開などで取り入れています。

- 話し手が伝えたい内容を確認めたり、相手の話したことに何らかの反応を示したりすることができる児童を育てたいと考えています。
- 既習事項や表現を繰り返し活用させることで、対話の続け方を身につけさせる。
 - 高学年は、2時間に1回程度設定し、身近な事柄についてその場で考えて対話できる児童を育てることを目指す。

文字を「読む」「書く」活動 ※5

Sunday

高学年の外国語活動では、文字を読んだり書いたりする活動が出てきますが、十分に「聞く」「話す」活動を行った上で、文字を「読む」「書く」活動を行うことを原則としています。

- 単元計画を立てる際に、児童が読んだり書いたりしたいと思えるような場を設定し、特に、「書く」活動は、児童が本当に書きたい言葉を選び、写し書きで書けるような手立てをとる。
- 遊びや活動の中で、文字に慣れ親しませるような場を提供する。
- 6年間で、アルファベットの大きい文字・小さい文字を識別して、読んだり書いたりする力を児童に身につけさせる。
- 児童の実態に合わせて、ひらがなの指導と同じように、アルファベットも書きやすい・覚えやすい文字から指導するなど、工夫して取り扱う。

児童の実態を踏まえて、児童が無理なく楽しく学習に取り組めるように工夫して授業を行っています。

★1時間の授業の流れの例

過程	時間	第〇時 (単元終末)
導入	5分	●挨拶 (Greeting) Warming up ●本時のめあてや流れの確認 ※1
展開	35分	○Small Talk ※4 ●コミュニケーション活動① ※2 ●中間評価 ※3 ●コミュニケーション活動② ※2
		●文字を扱う活動 ※5
まとめ	5分	●振り返り (Looking back) ※1

Classroom English の活用

外国語活動の授業では、できるだけ英語を使って授業を進めています。特に、授業の中で使うことの多い「ほめ言葉」や「指示英語」を、ジェスチャー等を交えながら使用し、英語での「言語活動」を増やすことを心がけています。

授業を行う中で、指導者も英語を使うことに慣れ親しみ、少しずつ使えるものを増やすようにしています。



教職員ぐんぐんタイムでは Classroom English と、Small Talk等の練習をしています。

Today's menu の活用

Today's menu を使用することによって、授業の流れが明確になり、児童が見通しをもって学習をすることができます。また、活動したことを思い出すために振り返りでも活用しています。

- めあては、Today's goal のカードを使用し、他教科と同様に、黄色で囲む。
- 低学年は、絵カードのみ(文字なし)を使用する。

